

種目【書写】

書名 項目	<h1>新しい書写</h1>	$\frac{2}{\text{東 書}}$
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○書写の原理・原則を発見させてから、「書写のかぎ」で原理・原則を整理できるように工夫されている。 ○「書写のかぎ」を設け、単元名にも学習事項を端的に示すことで、学習のねらいが明確化・焦点化されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○自分や友達の書いたものについて、よくなったところを伝え合う場を設け、友達と学び合うことを写真やイラストで示し、個の学習にとどまらず、協同的に学ぶことを促している。 ○「見つけよう」で書写の原理・原則を一般化し、「確かめよう」で書いて確認し、さらに、「生かそう」で、他の文字にも応用できるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「書写のかぎ」では、学習内容のキーワードを自ら書き込めるよう、ワークシート様式である。また、俳句や古文漢詩など、なぞり学習のページや学習に関わる熟語の書き込み欄もあり、学習したことの定着を図ることができる。 ○冒頭に、1年間の学習を見通すページが設定されている他、2～6学年では「書写の学び方」を図や写真で示している。学習過程が図解されており、自ら学ぶ手引きとなっている。</p> <p><毛筆と硬筆との関連> ○硬筆文字から書写の原理・原則を発見し、課題を共有させる。毛筆で確認し、硬筆で別の文字を書くことで定着を図るように構成されている。 ○1・2年生の巻末付録として、水書用紙が添付されており、全員が学習しやすい環境整備に配慮されている。1・2年生で、運筆能力の向上が図られ、硬筆での適切な書字動作が身につくことができるように工夫されている。</p> <p><各教科や日常生活との関わり> ○国語をはじめ、関連する教科には関連マークが示されており、意欲付けが図られている。 ○生活に広げ、活用できるように、発達段階にそった身近な内容を取り上げている。 ○「生活に広げよう」では、他教科の学習や季節の行事に合わせて書写を活用する場面が紹介されている。書写で学習したことを生活に活用できる書写力を養うことができる。</p>	
資 料	<p>○教科横断的に取り組む教育課題（情報教育、キャリア教育、環境教育、国際理解・グローバル教育、防災・安全教育、オリンピック・パラリンピック教育）を多岐にわたり取り上げている。 ○デジタルコンテンツを提供し、片付けや運筆などの映像を確認することができる。 ○挿絵や写真等、多く用いられており、興味をもって学習できるように工夫されている。 ○巻末付録として、年間を通して学んだこと「書写のかぎ」が分かりやすくまとめられている。 ○6年生の巻末に、「漢字からひらがなができるまで」が表示してある。ローマ字表は、英語教科書で使われる幅の4線で表記されている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○B判のワイドな紙面で図版を大きくしてある。 ○手書きの硬筆文字の筆づかいの字形に準拠し、教科書体を使用、「書写のかぎ」は、UD書体を使用している。 ○文意を理解しやすいように、文節で改行してある。</p>	
総 括	<p>○落ち着いたレイアウトや色づかいである。イラストやキャラクターが学習内容を妨げないよう配慮されている。 ○情報が整理されており、字の大きさも工夫され、大切な説明は詳しく表記されている。 ○毛筆教材の左側に学習事項のインデックスが設けられている。</p>	

種目【書写】

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校 書写	1 1 学 区
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程が〔①たしかめて書こう②考えて書こう③生かして書こう→ふり返ろう〕の3つの「書く」ステップで学習する構成になっている。児童がどのような学び方で、自分がどれくらい理解しているかが見える工夫がされている。 ○めあては、キーワードを色で網掛けし、児童が何を学ぶか気づきやすくなっている。 ○生活の中でも意識的に、正しい姿勢や筆記用具の持ち方が定着するように、大きな写真やイラストで詳しく説明している。 ○低学年のみ、学ぶところに付ける「書き方のかぎシール」が、課題の発見を助けるものとなっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○習得した書写の技能を、学習の場、生活の場において用いることができるように、「はがき」「封筒」「国語教材で練習」などの書いて実感できる教材を多数掲載している。 ○文字を整えて書くための基礎・基本やその技能の活用法、理解を深める様々な資料において「何を学ぶか」という目標が明確にわかり、児童が学習の見通しを立てて取り組める。 ○「ふり返ろう」の欄では、発展的ななげかけ「～を使った言葉を書きましょう。」「交わっているところ、接しているところに○をつけよう。」など、文字を書くポイントを提示してある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「かきぞめをしよう」など、古来より我が国にある伝統文化や技法に関わる資料、文学教材などを多く導入している。 ○児童が好むキャラクターが多く登場し、学習場面での疑問や気づきなどが示されている。 ○「書き方のかぎ」「ふり返ろう」で、マークをつけ、児童自ら学べるように工夫されている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小筆で書く3年の学習では、自分の学年と名前を題材にしている。 ○毛筆で運筆練習をしてから、「生かして書く」場面で硬筆を取り上げている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○習得した技能をさまざまな文字や生活の場面で活用し、効果的に書く姿勢を養えるように、習得の実感を伴うふり返りや、活用の可能性や児童の創造性を広げるさまざまな資料を掲載している。 ○「ふり返ろう」で、好きな俳句を選んで書いたり、都道府県を硬筆で書いたり、他教科との関わりのある教材となっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○文字に関わる様々な資料を全学年に豊富に掲載している。(書写の資料館) ○興味関心をもって主体的に取り組めるように、様々なコラムを掲載している。(なぜ?なに?書写の不思議) 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○初めて練習する漢字は、ページ下部に読みと筆順を示している。 ○硬筆の教材文字と書き込み欄については、上下に配置することで、利き腕を問わず教材文字が隠れずに練習できるようになっている。 ○多様な色覚特性に配慮し、だれも見やすい淡い配色になっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○書き込み欄が多く、教科書とワークシート一体型のようなものである。全ての復習・まとめの単元を、書いて確かめられる構成に統一しており、1冊で1年間の学習の成果を振り返ることができるよさがある。学習過程が明確で児童が主体的に学習できる。学習のかぎで書けるようになるための見方や考え方を確かめて、試し書きの文字と比較することで習得の実感を伴うふり返りができるようになっている。 	

種目【書写】

書名 項目	<h1>小学 書写</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年に「学習の進め方」で、児童の習字例や活動写真例を示すことで、自分の課題を解決していくための具体的な方法がわかり、意欲的・主体的に学習することができる。 ○「めあて」→「ためし書き」→「考えよう」→「ここが大切」→「まとめ書き」→「生かそう」→「ふり返ろう」までの流れがわかりやすい構成になっている。 ○ほぼすべての毛筆の教材において、朱墨と薄墨を使った図版を掲載している。 ○各学年、鉛筆の持ち方、筆の持ち方が巻頭に2段階に掲載されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○身につけた書写力が、学校生活や学習活動の「どの場面」で生かせるのかが、イラストなどですぐにわかるように構成されている。 ○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方の例として、国語ノートを題材にすることで、普段の学習に生かせる。 ○「はってん」コラムで該当する学年より上の指導事項を示すことで、これから学習する内容の見通しをもち、接続を図ることができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の学習をふり返り、4月に書いた文字と比べて変容を確かめるコーナーを設けている。 ○国語で学習した古典や文学教材を書写で視写することで、内容をより深く味わうとともに、豊かな言語感覚を養うことができる。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆で運筆練習をしてから、硬筆を取り上げている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書いて伝え合おう」では、全学年に発達段階にふさわしい手紙やはがきの書き方がある。低学年では、書いて伝え合う楽しさを実感できる題材と場面を設定している。 ○書き初めの行事を通して、日本の伝統と文化への関心が高められるようになっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年に水書用紙が付いている。 ○障害のある人が描いた作品（障害者アート）を掲載している。 ○裏表紙に、全学年鉛筆の持ち方の図版や写真が取り上げられて、いつでも確認できるようになっている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○色覚等の特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字等の工夫により、すべての児童にとって学びやすいように配慮されている。 ○使用する色数を絞ることで、文字に注目できる、落ち着いたレイアウトになっている。 ○朱墨や墨の濃淡で、筆運びや穂先の位置が分かりやすく表記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容や手順が明確に示され、児童が主体的に学習できるような構成になっている。また、基礎・基本の確実な習得の上で、他の学習や日常生活に活用できる力の育成を考慮している。各学年の硬筆教材は、国語との関連を考え、国語の教科書から取り上げている。全学年において、裏表紙に、鉛筆・筆の持ち方の写真を取り上げて、いつでも確認できるようになっている。 	

種目【書写】

書名 項目	<h1>書写</h1>	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1・2年生は、鉛筆の持ち方、姿勢に重点を置いている。(鉛筆の持ち方の見開きページ、途中に友だちと持ち方を見合うページがある、姿勢の写真と絵による合い言葉) ○各学年の巻頭に、書くときの姿勢・筆の持ち方などが分かり易く、見やすく説明されている。 ○低学年では、なぞり書きや空書きなど、身体で覚える教材を多く設けている。 ○毛筆の送筆や力のいれ具合が、朱墨と混ざったお手本で分かりやすい。 ○6年生では、「書写ブック」が付録としてあり、6年間で学習する内容が1冊にまとめてあり、中学校との接続を図ることができるように配慮されている。 ○3年生には、動物の体で示された始筆・送筆・終筆シールが付録としてあり、初めての毛筆として楽しみながら、ポイントを押しえ易くしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題解決型学習を想定して構成されている。課題発見から解決までのプロセスを通して書写の原理・原則を学び取れるように工夫されている。 ○学習の進め方が3～6年生で冒頭に提示されている。(☐考えよう☑たしかめよう☒生かそう) <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆学習のまとめの単元では、めあてを各自に立てさせ、学習したことを意識して書く取組が設定されている。 ○5年生の新聞の書き方を文字の配列、色等2種カラーで提示し、児童が違いの良さに気づき、主体的に話し合えるように工夫されている。 ○ペアやグループで話し合う写真が提示されている。 ○「漢字図鑑」を全学年に位置づけ、「文字のおもしろさ」を伝えている。(低学年は象形文字、中学年は指事文字・会意文字、高学年は会意文字・形声文字) <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆を扱う際に、教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題を教材内や「硬筆のまとめ」に設けられており、毛筆で学習したことが硬筆に生きるようになっている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○横書きや英語の書き方など他教科でも書写の学びが生かせるように工夫されている。(1年生は生活の観察ノートや算数の数字や式、3年生は社会で横書きの題材、5年生は英語で名刺作り) ○国語教科書と連動できる教材を、各学年二つ設定されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生に水筆用紙が付録として付いている。 ○運筆、リズムなどの身体的、感覚的な学習内容を、イラストや図、擬態語で説明している。 ○3年生の毛筆の準備と片付けが見開きで示され、写真資料数が多すぎず、児童が理解するために適切である。 ○5年生で「平仮名・片仮名」と「ローマ字表」を一覧で示すことで、興味・関心をもって学習できるように工夫されている。 ○「二次元コード」が掲載されており、手の動かし方や紙や墨、硯ができるまで等の資料が映像で確認したり学んだりしたりできる。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○書写体操を導入し、身体を使って書く技能教材であることを意識づけている。 ○どちらの書き方がよいか等、よりよい字形を考えさせる場が多い。 ○単元名、たいせつ、ふりかえりはUD書体を使用し、色は色覚の多様性に配慮し、誰もが識別できる配色が採用されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材が、問題解決型学習を想定した構成となっていて、その過程で学ぶことで思考力・判断力等を養えるよう配慮されている。 ○毛筆の手本右上に朱墨の手本、左下に硬筆の文字が小さく載せてあり、教材文字目に入るように余白を十分取っており、集中しやすく配慮されている。 ○基礎・基本の定着を図るために、2年生以上の全教材に「たいせつ」を設け、ポイントを整理したり自己評価したりできるようにしている。 	

種目【書写】

書名 項目	<h1>小学書写</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 1 1 6 日 文 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の主教材は、一つ一つの教材を「①考える→②確かめる→③いかす」の段階をふみながら学習できるように、学習過程を明確にしている。 ○書写の基礎・基本である姿勢・持ち方は、大きな写真を用い、ポイントを明示することにより、子供自身がいつでも確認できるように工夫されている。 ○各教材は、めあてと自己評価欄が示されており、達成感が味わえるように工夫されている。 ○学習指導要領で示されている各学年の指導事項が単元名になっており、学習のめあてが明確になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○主教材で学習したことを、副教材で他の文字を使って確かめ生かす構成になっている。 ○メモを取るとき、作文を書くときなど、様々な学習プロセスの中で書写力を活用する場面を想定して、教材が設定されている。 ○最終単元は、一年間を振り返り、学習したことを生かしながら取り組むことができるよう、教材が工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程が明確で、児童自身が学習を主体的に進められるように工夫されている。 ○書き込み欄が設けられており、主体的に学習が進められるようになっている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○副教材は、毛筆学習で習得した書写力を硬筆に生かすための、硬筆の関連学習が充実している。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「国語の広場」や「生活と書写」のコーナーでは、日常生活や他教科で、書写で学習したことを活用できるような工夫がある。 ○古典や文学作品を、書き写す教材が設けられており、伝統文化に親しむことができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「言葉の窓」「国語の広場」「生活と書写」などのコーナーが設けられている。筆や墨、硯などの資料や、文字の成り立ちに関する資料が提示してあり、書写に興味をもてるようにしている。 ○1・2年生の教科書巻末に、水書用紙を貼付した「水書きシート」がある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○隣り合う色同士が識別しにくい可能性がある部分は、色の明度に変化をつけたり、白い線を間に挟んだりするなどの工夫がある。 ○色分けによる示し方だけでなく、補助線や矢印の形状・太さにも配慮して、情報を区別できるようにしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○原理・原則を学び、他の文字で確かめ、言葉や文に生かすというように学習過程が明確であるため、児童が主体的に学ぶことができる。また、書写の力を確実に身に付けることができる。 ○様々な書く場面を想定して教材が作られているため、学んだことを日常生活に生かす力を育むことができる。また、書写に親しむコーナーもあり、楽しく学習できる工夫がなされている。 	